

熊本市と共に発展し続ける まちなか工房の取り組み

～まちなか工房の活動報告 2013～



★ 新しくなった熊本市の魅力

政令指定都市「熊本」
平成 24 年 4 月 1 日、熊本市は政令指定都市に移りました。平成 22 年 4 月の相模原市に続き、全国では 20 番目の政令指定都市となる。熊本市が目指す「九州と真ん中！日本一番しやすい政令指定都市 くまもと」の実現に向け取り組んでいる。



熊本市政令指定都市移行記念式典

九州新幹線全線開通
平成 23 年 3 月 12 日、九州新幹線が全線開通した。熊本は九州の真ん中にあり、九州各県へのアクセスがしやすい立地にある。そのため、熊本を經由しての九州各県へのアクセスがより気軽になるようになった。また、熊本駅周辺も様々な建築家がプロジェクトとして取り組み、整備が進んでいる。



新しくなった熊本駅

駐輪場の有料化



新設された駐輪場

平成 24 年 6 月 1 日から中心市街地の駐輪場が有料になった。熊本市の中心市街地に、多くの駐輪場が整備された。また、防犯カメラや照明も設置され、安全で利用しやすい駐輪場となった。
自転車やバイクを路上等に放置することは、緊急車両等の通行の妨げや、歩行者の通行の障害、事故等を誘発する原因となるとともに、景観悪化を招く。放置自転車がない安全で美しい街づくりに取り組んでいる。

新たな観光拠点「桜の馬場 城彩苑」



平成 23 年 3 月、熊本城築城 400 年を経て多くの方が熊本城をはじめとした歴史文化の魅力に触れ、城下にまで足を延ばし賑わいが溢れることを願って「桜の馬場 城彩苑」が誕生した。歴史文化体験施設「湧々座（わくわくざ）」と熊本郷土料理とここでしか味わえない逸品をとりそろえた「桜の小路」が立ち並ぶ。桜の馬場 城彩苑は熊本城散策の新たな観光スポット・休憩所として楽しめる。

湧々座

★ まちなか工房 4 つの理念～広がりを見せる工房の活動～

熊本の中心市街地活性化基本計画では複数の大規模事業が進んでいます。それらの相乗効果を発揮させるとともに、地域全体の活性化や市街地整備に結びつけるようなエリアマネジメントが不可欠です。まちづくり会社が具体的な業務内容を模索中であるなど、その実践方法には不透明な部分もありますが、きめ細かい地域情報の蓄積とそれを踏まえた課題や計画の診断など、「まちづくりの家庭医」としての役割こそが工房の最重要任務と考えています。

2005 年 5 月に熊本市中心部の通並木坂商店街にある店舗ビルのワンフロアを借りて「まちなか工房」を開設しました。毎年度、工学部教員を対象に工房利用研究プロジェクトを公募し、採択された教員（工房教員）数名とその指導を受ける学生（工房学生）30 名弱、さらには工房活動を支援する特任教員 2 名が研究スペースを拠点に活動しています。平日昼間には、事務担当職員 1 名も常駐しています。

まちなか工房 4 つの理念

1 研究教育と連動した地域情報の蓄積

地域情報の蓄積
まちなか工房では学生の研究を通し、まちづくりのための基礎資料としての地域情報を蓄積しています。



ヒアリング調査風景 夜間連続立面写真（夜間照明と照度の関係図）

現在

1 住民とまちなか工房が協同し、新しい通り空間を提案、形成しています。

平成 21 年にパーキングメーターが撤去され、駐車場の利活用を探り、地元意見を集約するべく WS を 4 回開催し、大々的な社会実験も実施しました。当初想定していた第一通行帯の利用方針が変わり、あまり使われていない既存の花壇やベンチを撤去した歩道を中心とする歩行空間デザインを検討を進め、検討のために 1/30 の部分模型と 1/50 の全体模型を作成しました。設計から施工へと段階が進み、予算との兼ね合いも含めた詳細のデザイン検討では、地元商店街の要望でもある「ゆとりとくつろぎと活気のある空間」を目指しました。補修箇所に加え、通り全体をランダムな舗装パターンが連続する配置を行いました。平成 22 年より、熊本市とまちなか工房が協同し、都市計画や政策の面を市が担い、住民との WS や社会実験の実施、空間のデザイン提案をまちなか工房で行いました。



第1回WSの様子 熊本日日新聞 平成22年9月15日



第5回WSで1/30模型を囲んでの議論



舗装の素材確認

舗装された街路

現在

2 積極的に研究活動の報告等、学外に飛び出し発表し、行政・市民の人たちと一緒に議論しています。

平成 23 年 7 月 29 日に三都市まちづくりシンポジウムが開催されました。各都市の現状や取り組みを紹介し意見交換しています。当日は 200 人以上の参加者があり、議論も活発に行われました。平成 24 年 3 月 7 日には、城彩苑で熊本市中心市街地活性化シンポジウムが開催され、学生が研究報告をしました。このように、まちづくりに対して積極的に意見交換をしています。



熊本市中心市街地活性化シンポジウムにおける学生の発表の様子



三都市まちづくりシンポジウムの様子



三都市まちづくりシンポジウム

現在

3 市民のまちづくりに関する学習交流機会の提供

まちづくり学習会など
月に 1 回まちなか工房に講師を招聘しています。2005 年度から 90 回のまちづくり学習会が行われました。講師数は 101 名、うち工房外講師は 91 名に昇ります。

4 地元民間組織のまちづくり活動支援

イベントの運営参加など
2005 年度から商店街組織と共同で秋の季節イベントを開催し、その後ゆかた祭り・銀杏祭り・えびす祭りなど賑わい創出に向けたイベント開催のボランティアとして、商店街青年部のメンバーと共に活動しています。



祭りの運営に参加した学生

現在

3 学習会で得た知識をもとに、新たなまちづくりの動きが広がっています。

県内外から専門家や実務経験者を招いて講演を開き、中心市街地活性化策についてさまざまな意見交換をしています。学習会の場も拡大し、まちなか工房だけでなくとまらずホール等でも開かれています。平成 24 年 5 月の学習会では、商店街活性化の切り札として注目されている「得する街のゼミナール」の熊本本元、愛知県岡崎市から「岡崎まちゼミの会」代表の松井氏においていただきました。熊本商工会議所の共催により、市内の商店街等に広く呼びかけ通常に倍する約 60 人の参加がありました。



学習会風景

現在

4 毎年様々な地域のイベントにスタッフとして参加し、私たちがまちづくりを担う一員であるという自覚を後輩へと引き継いでいます。

大学がまちなかに根付いた

～まちなか工房の活動報告 2013～



研究成果をまちに返す。専門的だけど分かりやすい。専門的だから役に立つ。平成24年度研究成果発表

教授がまちにやってきた
まちづくりのテーマを持ち寄って
研究者が共同利用。
学生たちの調査研究の拠点
市民参加の自由な学びの場

商店街の中に
ある研究室
まちそば大学
まちなか工房

行政
経済団体
商店街
他大学
市民

まちなか工房のプロジェクトとして、都市計画、交通計画、環境問題など、広くまちづくりに関わるテーマで様々な研究が行われています。その内容は、都市マスタープランといった行政計画に直結するもの、まちなかの人の回遊行動から都市空間の特性を明らかにするもの、省エネといった市民活動の効果を評価・検証するもの、市民と一緒に歩道の舗装のデザインを考えるものなど、多岐にわたります。

こうした研究成果は、毎月1回の「まちづくり学習会」の場で発表するほか、行政や経済団体など多くの方に知ってもらい役立ててもらおうと、発表会やシンポジウムを開催します。

とすれば、一般市民には縁遠い存在である大学が、進んでまちなかに出ていき研究拠点を構えて9年が経過しました。この間、熊本のまちに関する様々な基礎データや研究成果も蓄積されてきました。これからは、こうした研究成果をまちに還元していくことが重要であり、その役割をしっかりと果たしていきたいと考えています。

「よくわかる熊本のまちづくり」研究発表会

平成25年6月18日(火) 14:00～16:30

(位奇和久教授) 集約型都市構想計画に基づく熊本市計画マスタープランの検討

(清上章志教授) 中心市街地における回遊行動の分析と回遊促進策

(星野裕司准教授) 歩道のリニューアル計画—地元商店街とのコラボ—

(田中昭雄教授) 熊本市中心地区における省エネルギー化の経済効果と可能性

シンポジウム「まちなか工房に期待するこれからのまちなかの分析とデザイン」

都市全体を手のひらですっぴり覆い、手のひら全体でまちの全てを一度に感じることができたらいいな。

都市マス スーパーへの買い物が不便な場所はどこ？

施設アクセシビリティ総合評価

住宅地における新設シミュレーション (居住区新築仮定(約))

GISを使って、広い熊本市の中でどこに生活不便地域が分布しているかが分かる。すると、道路整備、各種施設の整備を都市のどこで行えばよいのかが明らかになる。またその効果を事前に推計することができる。

回遊行動 まちの中で、人々はどこを歩きどこに集まる？

たとえば歩行者通行量の空間分布分析

たとえば街路構成と歩行者分布分析

観光客は熊本城を中心に、地元市民は商店街に。お城とまちのつながりが弱いことは一目瞭然。回遊性を高めるには、どの街路に手を入れればよいか検討できる。さらに、何かの施設ができた場合の人の流れの変化も予測できる。

一緒に考え一緒に働く。

デザイン 楽しく歩ける歩道ってどんなのだろう？

ガーデンのように使う 2012.2.13WS

ガーデンのように使う 2012.2.13WS

回遊性を高める為に重要な街路を知った上で、住民とのワークショップを重ね、具体的なデザイン提案を行う。学生も現場で多くを学べる。

シミュレーションが役立つ。

評価と実証 市民のエコの取り組みの効果はどのくらい？

省エネ効果の試算(当該地区全体)

○空調温度1℃下げると
夏期:約105万円/日
冬期:約35万円/日

○照明器具をLEDへ
●自然電球からの交換効果は80%程度(節電効果大)
●蛍光灯からの代替効果は、条件による(あまり大きくない場合も) ⇒ 省人力効果は大きい

今現在の、中心市街地のどこでどのような電力が必要なのか?皆で節電すると金額にしていける効果があるのか。まち全体での評価がわかると、省エネの意識も一段と高まる。